

# 就寝時の病的把握現象に対し手袋着用が有効だった 左前大脳動脈領域の脳梗塞の1症例

## Grove effect for sleep disorder in alien hand syndrome

荻野 祥代<sup>1)</sup>, 早川 裕子<sup>1)</sup>, 瀬間久美子<sup>1)</sup>, 高橋 素彦<sup>2)</sup>, 三村 將<sup>3)</sup>

**Key Words** : 病的把握現象, 把握反射, 本能的把握反応, 脳梗塞

### はじめに

左前大脳動脈領域の脳梗塞後, 右片麻痺・右手の病的把握現象を呈し, 就寝時に右手が動いて眠れないことを訴えた1症例に対し, 就寝時の手袋装着を試行したところ右手が動かず眠れるようになった。病的把握現象に対する手袋装着の有効性について考察し報告する。なお, 発表に際し症例に説明を行い書面で同意を得た。

II, 右手の把握反射は目視下では出現しないが注意をそらすと出現した。右手の不要な動きは観察上減少したが, 日中左手を右手の上に置き, 動きを抑制していることが多かった。日常生活では右手でスプーン操作が可能になり, 症例は日中の右手について「大分おとなしくなった」と述べたが, 「寝るときに右手が動いて眠れない」と訴えた。症例は, 就寝時に右手がボタンの止め外しや左手をなでるなどするため, 右上肢を常に身体の下にして寝ていた。

## 1. 症 例

60歳代後半女性, 右利き。頭部MRIで左脳梁膝部・帯状回を含む左前大脳動脈領域に脳梗塞を認めた。発症2日後, JCS1, 右上肢表在覚軽度鈍麻, 位置覚重度鈍麻で肘以遠にしびれがあった。随意性はBrunnstrom stage (以下, Br.stage) 上肢II-手指IV-下肢I, 把握反射・本能的把握反応は認めなかった。発症2週目, 右上肢は位置覚軽度鈍麻, Br.stage上肢III-手指V-下肢IIに改善したが把握反射・本能的把握反応が出現した。右手は使用の必要がない場面で宙を探るように動くことも観察され, 症例は右手について, 「いらぬときに出てくるけれど使えない」と述べた。3週目にBr.stage上肢V-手指V-下肢

## 2. 就寝時の手袋装着の試み

5週目に就寝時に右手を腹部に置きその上に左手を置くこと, クッションを抱くことを試した。いずれも就寝直後は動かずにいたが右手は次第に左手やクッションを払って動いた。7週目に就寝時に手袋を装着すると, 装着したその日から右手の不随意的な動きがなく眠れるようになった。

数日後, 当初装着したアクリル毛糸の指先までである手袋では「暑くて汗をかく」と訴えたため, 薄手の綿の手袋と指開きの手袋を順に試した。いずれの手袋でも日中の把握反射を抑制する効果があったが, 薄手の手袋では就寝時に不随意的な動きが出現し

1) 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター リハビリテーション部 Sachiyo Ogino, Yuko Hayakawa, Kumiko Sema : Yokohama Brain and Spine Center, Rehabilitation Department

2) 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター リハビリテーション科 Motohiko Takahashi : Department of Rehabilitation, Yokohama Brain and Spine Center

3) 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 Masaru Mimura : Department of Neuropsychiatry, Keio University School of Medicine

た。指開きの手袋では右手が動かずに眠れたため指開きの手袋を装着して眠るようになった。

### 3. 考 察

症例の就寝時の不随意な動きは、握ってしまうだけでなく、ボタンのとめはずしなども認めた。症例は把握反射・本能的把握反応を呈しており、就寝時の現象は病的把握現象の延長線上の障害と考える。就寝時には手掌面に意図しない感覚刺激が入力されるため、それが誘因となり病的把握現象が発現したものと考えられる。

Nicholasら(1998)とOrtega-Albasら(2003)は夜間のAlien Handによる不眠に対し、オープンミトン装着し眠れるようになった症例を報告している。両者ともミトンによる持続的な手掌への感覚刺激が反射の閾値を高め、把握反射を止めると考察している。

本症例において薄手の手袋では効果がなかったが、文献例でもオープンミトン装着しており、厚

手の手袋であった可能性がある。

Seyffarthら(1948)は把握反射をcatching phaseの手掌への触覚刺激からはじまりholding phaseの固有知覚刺激からさらに握りを強めるとしている。本症例で指開きの手袋でも効果があったのは、手袋の手掌面への刺激がcatching phaseの反応を生じさせない役割を果たした可能性がある。症状や手袋の形状による効果の違いは複数例での検討が必要だが、夜間の不随意な動きに対する手袋装着はある程度の厚さがあり、手掌面を覆うことでcatching phaseの反応を抑制する形状のものが有効である可能性がある。

### 文 献

- 1) Nicholas, J. J., Wichner, M. H., Gorelick, P. B., et al. : "Naturalization" of the Alien Hand: Case Report. Arch Phys Med Rehabil, 79 (1) : 113-114, 1998.
- 2) Ortega-Albás, J. J., de Entrambasaguas, M., Montoya, F. J., et al. : Sleep disorder in alien hand syndrome. Sleep Med, 48 (3) : 247-249, 2003.
- 3) Seyffarth, H., Denny-Brown, D. : The grasp reflex and the instinctive grasp reaction. Brain, 71 (2) : 109-183, 1948.